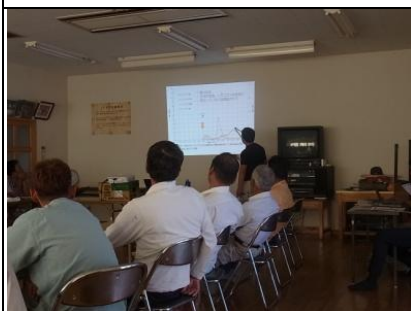


普及指導活動情勢報告（平成26年10月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

J A土佐くろしお促成サヤインゲン生産者がI P Mについて勉強しました



サヤインゲン部会において、I P M勉強会が9月26日開催され、22名の生産者が参加しました。

近年、サヤインゲン栽培ではコナジラミやアザミウマ等の害虫による被害が問題となっており、これまでの実証試験の結果を踏まえ、スワルスキーカブルダニを用いたI P Mへの取り組みについて説明しました。生産者は、天敵を利用した栽培に興味があるものの技術的な不安もあり、まだ数戸しか取り組みがありません。

今後も、実証圃の活用や他品目の成果を参考に技術の確立を進めます。

J A土佐くろしおニラ部会が現地検討会を開催しました



J A土佐くろしおニラ部会は、9月30日に須崎市と中土佐町の2ヶ所で現地検討会を開催し、須崎市で11名、中土佐町では10名の生産者が参加しました。

今年の株養成期間中の多雨や病害の発生により充実が十分でない株があるため、早刈りをせずに生育期間を十分確保するように栽培管理について説明しました。また、農業技術センターで実施しているニラの電照及び炭酸ガス施用試験結果の情報提供をしました。

参加者の中では、電照及び炭酸ガス施用での増収効果に期待や実施を検討したいという声があり、生産者の関心は高いことがわかりました。今後、現地検討会で生育状況に合わせた栽培管理指導や栽培技術の情報提供を行い、生産者が参加したい検討会を目指します。

神母野（いげの）営農組合 第3回農作業体験交流



神母野営農組合（中土佐町）が10月4日に第3回目となる農作業体験交流を実施し、親子連れなど12名が参加しました。6月に田植えした田での稲刈りや野菜の収穫体験の後、組合員とともに新米のごはん、カボチャコロケ、カボチャサラダ、豚汁など地元食材を使った昼食を楽しみました。参加者からは、「とても楽しかった、来年もぜひ参加したい」との声もあがっていました。組合員も、当日の受付、案内、作業指導等、準備や段取に積極的で自主的な行動につながっています。

今後も消費者との交流活動が継続できるよう支援します。

J A津野山の土佐甘とう生産者が交流会へ参加



甘長トウガラシのJ A南国市との生産者交流会が10月4日に開催され、J A津野山から9名の生産者が参加しました。

交流会では、現地栽培ほ場を見学し、参加者は自分の栽培ほ場の生育と比較でき参考になったようです。検討会では、尻腐れ果発生調査結果や販売促進活動報告などの情報提供を行いました。また、販売促進活動についても今後、積極的に検討することになりました。

交流会を通して県内他産地とのリレー出荷が継続できるよう、栽培技術や組織活動に関する支援をします。

J A土佐くろしお生姜部会出荷始め総会



J A土佐くろしお生姜部会では、10月6日に出荷始め総会を開催し、17名の生産者が参加しました。

今年の多雨で冠水したほ場で病害の発生が多く見られたため、農業技術センターと連携して、露地ショウガの臭化メチル代替技術についての講演会を企画し、病害対策の周知を図りました。

参加者からは、根茎腐敗病に効果のある薬剤は何か？等の質問があり、関心が高いことがわかりました。

今後も農業技術センター等と連携して栽培技術や病虫害防除対策の周知を図ります。

新規就農者を対象とした農業基礎講座を開催



J A土佐くろしお管内の就農して間もない農業者を対象に、農業の基礎知識習得を図る「新規就農者農業基礎講座」の第一回講習会を10月7日に開催し、就農5年以内の新規就農者23名が参加しました。

「農業について」のテーマで、農薬の種類と特徴、使用時の注意点などの基本的な内容について講習を行いました。

参加者からは、「説明がわかりやすい」「参考になった」といった意見がでました。

本年度の講座開催は2回を予定しており、次回は1月に「農業技術センター及び園芸連の現地研修」を実施する予定です。

平成27年産加工用わさび（葉わさび）の栽培講習会を開催



J A津野山管内で来年度に加工用葉わさびの栽培を予定している生産者を対象に、栽培講習会を10月8日に開催し9戸が参加しました。

この栽培講習会は、昨年栽培し、引き続き栽培を予定している生産者を講師に、生産者参加型の講習会としました。

参加農家は、栽培管理や収穫調整作業のポイントなど、栽培農家の実体験に耳を傾け、熱心に勉強していました。

J A津野山や県園芸連と連携し、現地検討会を開催するなど、冬場の補完品目として有望な加工用の葉わさびの普及に取り組んでいきます。

ミョウガの品質向上に向けた取り組み



J A土佐くろしおみょうが部会決算総会及び平成26園芸年度出荷反省検討会が10月10日に開催され、120名が参加しました。今年は、夏期の品質トラブルがやや多く、市場関係者、関係機関から情報提供を行いました。出荷期間中は、緊急目慣らし会や市場との対策会議などを開催し、状況認識と選別の徹底を指導したり、農業技術センターと連携して、含水率と腐敗との関係や出荷調整時の水切りの違い等による品質への影響を調査、試験を行いました。

夏期だけでなく年間を通じて、出荷後の品質保持調査を行い、データを蓄積して、効果的な品質向上対策を農家、関係機関と共に実践していきます。

津野山産ユズ振興に向けた取引先とのパートナー関係の構築



J A津野山管内では、中山間の経営安定のための補完品目として、加工用ユズの産地化に取り組んでおり、平成 20 年から新植が進んでいます。近年、徐々に出荷量が増えてきたこともあり、取引先である J A馬路村との関係を構築していくため、10 月 16 日に関係機関 5 名が馬路村を訪問しました。J A津野山管内の 26 年産のユズの肥大や着果量、今後の生産量の増加等について情報提供や、近年の加工ユズ需要動向等の情報交換を行いました。

取引先とのパートナー関係の構築のため、今後も情報交換を定期的に行うとともに、その情報を生産者へもフィードバックしていきます。

中土佐町大野見エコ米の新米ができました！



「大野見しんまいフェスタ（中土佐町）」が 10 月 19 日に開催され、「おおのみエコロジーファーマーズ」の 6 名が新米（ヒノヒカリ、にこまる）の試食・販売を行いました。組織の活動が新聞で取り上げられたこともあり、注目も高く、昼過ぎには完売することができました。また、高知県立大も参加して、学生との連携で作成した「ごはんがすすむ」レシピによる試食も売上に貢献しました。

大野見エコ米のブランド化を進めるため、栽培、包装資材作成等の支援を行なってきましたが、イベントに参加してみて、POP等の販促資材を活用した販売方法の再検討が必要と分かり、引き続き支援します。

中土佐町大野見地区の集落営農組織を対象とした研修会を開催



集落営農組織（任意組合）を対象とした会計処理研修会を 10 月 22 日に中土佐町大野見地区で開催し、3 組織 5 名が参加しました。

この研修会は、任意組合においても会計基準に基づいた帳簿作成が必要なことから、日頃の疑問点解消、より理解を深めることを目的に開催しました。研修では、取り組む必要性、記帳方法、利益分配、減価償却等について、J A、町と役割分担をして説明しました。

参加者からは、補助金で導入した機械の原価償却について、機械更新のための資金の確保等について質問がありました。

今後、管内の他地区においても同様の説明会を開催します。

農地中間管理機構との情報交換会を開催



須崎市地域農業再生協議会幹事会と農地中間管理機構との情報交換会を 10 月 23 日に開催し関係者 9 名が参加しました。

農地中間管理事業への取り組みは始まったばかりで、事業を円滑に推進することを目的に情報交換会を企画しました。機構からは事業詳細、県域、近隣地区の取組状況、今後のスケジュール等の説明があり、産地からは、J A土佐くろしおが来年度に設立予定の J A出資農業法人との連携等について情報交換を行いました。

今後、関係機関が常に情報共有して連携する産地体制を整備していきます。また、同様の情報交換会を管内の他地区でも開催し、農地の維持、担い手の確保に向けた取り組みを進めます。